港区に脈々

木をふんだんに使った薬局や木材アートのようなオフィスビル…。港区で建材の一部に木を採り入れた建物が目立ってきた。二酸化炭素（CO_2）の削減に努力しているとして国産木材を活用した建物を区が認証する制度を始めて十年。何かとドライになりがちな都心の真ん中を、増してきた「木々」が潤している。

「駅からここまでの間に木はあまり見かけない。来ると安心感がありますね」

天井や壁、カウンター、トイレのドアなど随所に木材が使われた港区三田の中川薬局。目まいの症状があり、定期的に薬を取りに来るという足立区の会社員鴻島友明さん（四七）が話した。

薬局は延べ床面積六十平方㍍。二〇二〇年に改築した。建築デザイン会社の助言を受け、檜原村のサワラ材〇・四一立方㍍を使う。開設者の中川明子さん（六〇）は「きっかけは当時あった補助金。でも来る方々から『温かみがあるね』と好評です」と笑う。

西新橋交差点角に一月末に完成したオフィスビル「銀泉西新橋ビル」。地上十二階地下一階、延べ床七千七百八十一平方㍍に二〇・六七立方㍍のスギ材を使う。五重の塔をイメージさせるデザインが存在感を主張する。

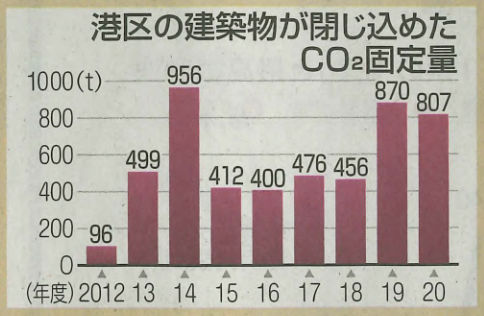
ビル開発などを手掛ける銀泉（本社・大阪市）は一六年に区内に整備した別のビルでも認証を取得。益子俊彦・東京ビル開発部長は「さらに木をアピールするデザインを考えた。この先、脱炭素や環境への配慮が必ずお客さまから求められる。認証がビルのアピールポイントになれば」と話す。

新橋、赤坂、六本木。港区は繁華街だらけだ。代表的な温室効果ガスのCO_2排出量は都内自治体でもっとも多い。

受付カウンターや壁に木材を使用した中川薬局

木材を使った外観が目を引く銀泉西新橋ビル＝いずれも港区で

国産木材の促進10年



港区の木材使用促進制度　区内で延べ床5000平方㍍以上を建てる場合、建築確認申請とともに国産木材の使用計画書の提出を求める。最低1平方㍍当たり0.001立方㍍（10㌢四方の積み木1個分）から。使用量に応じて3段階の認証書を発行する。5000平方㍍以下でも認証を受けられる。区と協定を結ぶ市町村で産出された木の使用を促す。使った分を新たに植樹する約束をしているためだ。協定相手の市町村は開始当初の全国32から81に増えた。

循環

区は一一年十月、区内で建てられる建築物に国産木材の使用を促す「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」を始めた。使われないまま古くなった木を伐採して燃やせばCO_2を排出するが、使えば吸収したCO_2を閉じ込め続けられる。

トウェイ駅は、屋根やベンチなど至る所に木が使われている。区の認証は三段階で最高の三つ星。延べ床五万七百平方㍍の区の複合施設「みなとパーク芝浦」には、壁や腰掛けなどに四百七十七立方㍍もの木が使われている。旗振り役である区の面目躍如だ。

／紙面構成・飯盛結衣